

ネイチャーポジティブ経済研究会の概要と狙いについて

- カーボンニュートラル（CN）や循環経済（CE）に続く国際的な動きとして、ネイチャーポジティブが次期世界目標（ポスト2020生物多様性枠組）で位置づけられる見込み（※G7では既に約束済み）
- ネイチャーポジティブの実現には経済の変革が不可欠という考えの下、本研究会を設置。

【主な検討内容（暫定）】

- ・ NP移行による日本での効果（経済効果、雇用効果等）
- ・ NP経済が実現すると生まれるビジネスチャンスの分野、規模
- ・ NP経済の実現のネック
- ・ 各主体の役割
- ・ 気候変動対策とのコベネフィットのある取組の種類、規模

FYR5
ネイチャーポジティブ経済移行戦略
(仮称) 策定

FYR4
ネイチャーポジティブ影響分析報告

FYR3(R4.3.23)

国内企業や国際社会への情報発信

■「ネイチャーポジティブ経済移行戦略（仮称）」構成案について（資料4）

- 全体の構成や入れるべき要素等について、ご意見をいただきたい。
- また、戦略の構成要素のうち、今年度検討をしている以下についてご意見をいただきたい。

■ネイチャーポジティブ移行による日本への影響について（資料5）

ネイチャーポジティブへの移行による効果（経済効果、自然資本へのインパクト）について以下の観点でご意見をいただきたい。

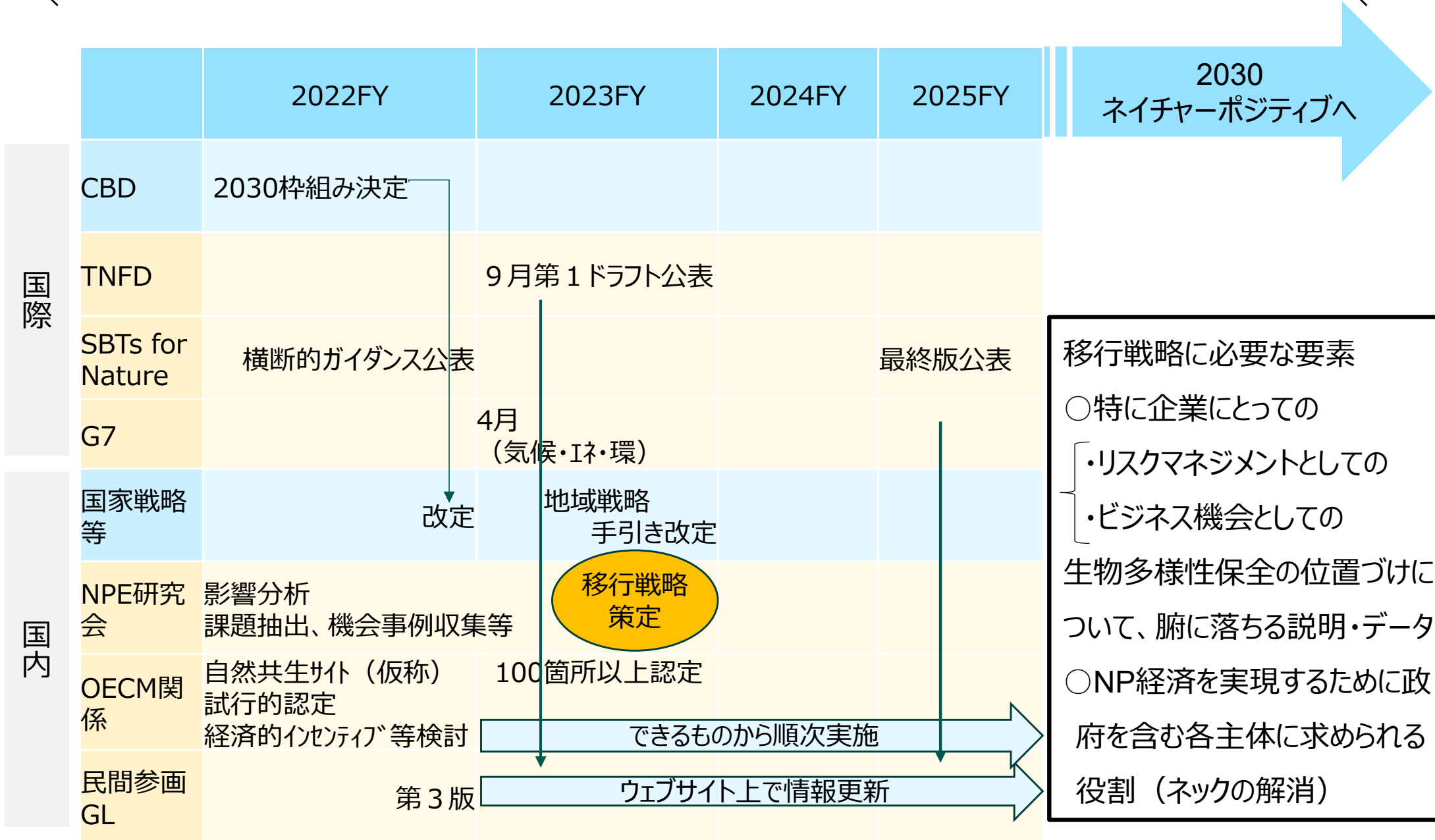
- 算定結果のとらえ方。
- 算定結果をふまえて、「ネイチャーポジティブ経済移行戦略（仮称）」においてどういったメッセージが出せるか。

■指標（データ）・サプライチェーン対応の課題・方向性の整理結果について（資料6）

指標・サプライチェーン対応（把握・改善）の課題・方向性について、以下の観点でご意見をいただきたい。

- 現状でできること、できないことの整理をふまえ、必要性・実現可能性の観点から、企業が自然関連情報を把握するにあたりどこまでを目指すべきか。
- その上で、優先的に対応すべき課題は何か。

国内外の主な議論・枠組みとNPE移行戦略との関係



※上記のほか、毎年度、予算要求等の政府プロセス。

ネイチャーポジティブ経済研究会のアウトプット(案)

「ネイチャーポジティブ経済移行戦略」(仮称) ※令和5年度末までに策定予定

構成案 ※赤枠は今年度の議論の対象

#	大項目	小項目 (例)
1	ネイチャーポジティブ (NP) 像	<ul style="list-style-type: none">• 生物多様性のBaUと目指す姿• 日本の目指す姿 (負荷削減目標、実現への道筋) (ポスト2020枠組み、国家戦略等も踏まえつつR5FY議論予定)
2	NP像の実現に当たっての経済の役割と効果	<ul style="list-style-type: none">• 分野別の負荷状況 ※世界レベルはデータあり• NP経済の定義 (ポスト2020枠組み、国家戦略等も踏まえつつR5FY議論予定)
3	NP経済実現の可能性と効果	<ul style="list-style-type: none">• NP実現に貢献する業種・セクター＝オポチュニティ (市場規模・事例、気候変動・資源循環とのコベネフィット事例)• NP移行による日本での効果 (経済効果、雇用効果等)• 事業活動における課題 (R4FYはサプライチェーン上の課題と対応の方向性、その他の課題についてはR5FY議論予定)
4	2030年NP経済の実現に向けた各主体の役割	政府、企業、地方自治体、市民の役割 (ポスト2020枠組み、国家戦略等も踏まえつつR5FY議論予定)
5	2050年に向けた展望	(ポスト2020枠組み、国家戦略等も踏まえつつR5FY議論予定)